



スイス・リー シグマ誌による予備的推計 今年の災害損失は400億ドル - 損害保険会社にはよい年に

Contact:

Aurelia Zanetti, Zurich
Telephone +41 43 285 2544

Thomas Holzheu, New York
Telephone +1 212 317 5190

Clarence Wong, Hong Kong
Telephone +852 2582 5644

Media Relations, Zurich
Telephone +41 43 285 7171

Swiss Reinsurance Company
Mythenquai 50/60
P.O. Box
CH-8022 Zurich

Telephone +41 43 285 2121
Fax +41 43 285 2999
www.swissre.com

チューリッヒ、2006年12月20日 - スイス再保険会社(略称「スイス・リー」)の予備的な推計によると、2006年に自然災害、人為的な災害によって生じた経済的損失の総額は約400億米ドルで、世界の損害保険会社の支払い額は150億米ドルだった。地震、寒波、嵐、船舶災害で多くの犠牲者が出た。全体で3万人が災害によって命を失ったと推定されている。

保険金支払い請求は約150億米ドルにとどまる

記録的な保険金支払いが数年間続いた後、損害保険会社にとって2006年はわずかながら好転しつつあるようだ。災害による保険金支払いがわずか150億米ドルだったことで、2004年、2005年のハリケーン被害に対する記録的な支払いで減少していた危険負担資本を補充することができるだろう。これまでのところ、損害保険会社自体に影響が及んだ10億ドル級の保険金支払いのケースは3件(米国の竜巻が2件と日本の台風が1件)にすぎない(文末の「最も高額な保険対象損失の表」参照)。過去20年のなかで2006年は1997年、1988年に続いて、保険金支払いが3番目に少なかった。これは主として米国と周辺諸国でハリケーンシーズンが静かだったためである。前年と違って欧州もこれまでのところ損害の大きい災害を免れている。しかし、冬の嵐(1993年のロタル、マルティンの記憶がある)と洪水(例えば1993年のライン川下流域の「クリスマス洪水」)の時期はまだ終わっていない。さらに、主要な工業地域が地震に襲われておらず、被害額が非常に大きい人為的災害 - 飛行機の墜落事故、大規模火災など - のないことも目立っている。

経済的損害総額は推定400億米ドル

損害の大きい災害の地理的分布は経済的損失額と保険金支払い請求額に反映される。2006年は台風と地震が主に保険価額が比較的少ない新興工業国を襲い、災害による直接の金銭的損失はわずか400億米ドルにすぎなかった。世界で400億ドルの経済的損失のうち実際に保険でカバーされていたのは3分の1以下の150億米ドルにすぎなかった。

災害による犠牲者は約3万人

再保険誌シグマは140件近い自然災害と200件以上の人為的災害を記録している。犠牲者の数は年によって大きく異なるが、2006年は3万人以上が自然災害、人為的災害で命を失った。最も死者が多かったのは地震で、5月27日にはマグニチュード6.3の地震によってインドネシアのジャワ島のバンツル市がほぼ完全に壊滅した。7月17日にはインドネシアが再び地震に襲われた。マグニチュード7.7のこの地震によって津波が起こり、地震と津波による犠牲者は800人に上った。

2006年には嵐と洪水も1万1500人の生命を奪い、フィリピンは2つの災害に襲われた。2月にはレイテ州で長雨による土砂崩れが起こり、住民約1000人のグインサゴン村を埋めた。11月末には台風ドリアン(別名レミング)による豪雨でルソン島のマヨン山の山腹を火山灰の泥流が流れ下り、アルベイ村など途中のすべてを埋め尽くした。ドリアンによる犠牲者はフィリピンが1270人、ベトナムが80人以上だった。

エルニーニョがハリケーンの発生を阻む

9月から12月にかけて現れる「エルニーニョ」現象は太平洋の熱帯域で通常より高い海面温度を伴う。西太平洋の赤道付近では2006年秋から中程度の強さの台風活動を伴うエルニーニョの様相が現れている。例えば台風ドリアンはフィリピンとベトナムに被害を与え、続いてシャンシャン(台風13号)は日本に被害を及ぼした。これと対比的に大西洋の熱帯域ではエルニーニョによる気象現象がすでに2006年夏のハリケーン発生を減らしている。その結果、6月初めから11月末まで続く米国のハリケーンシーズンで2006年は1個の強いハリケーンと5個の中程度のハリケーンが発生しただけだった。

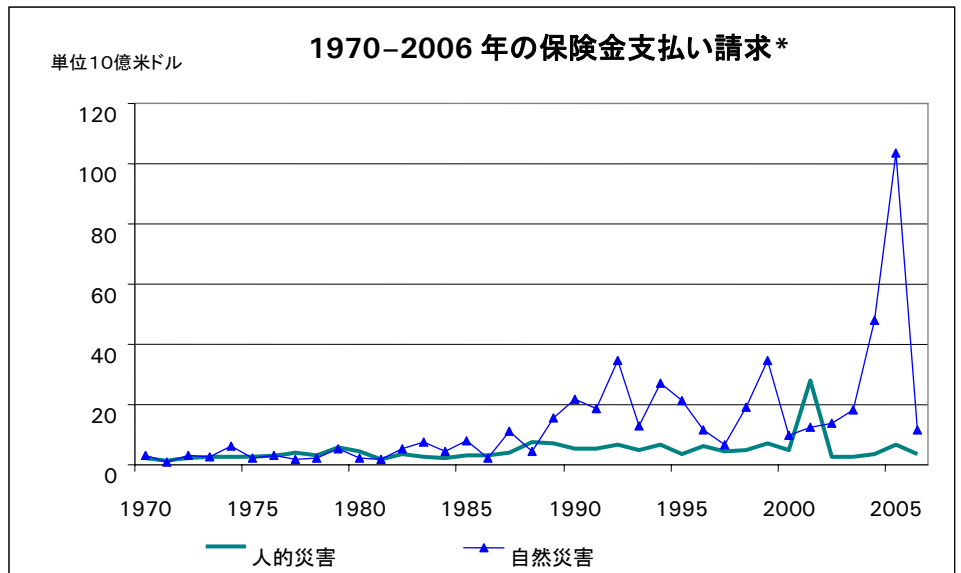
表: 2006年の最も高額な保険対象損失

保険対象金額 (単位10億米ドル)	日付(発生日)	災害	国
1 720	13.04.2006	竜巻、最大時速240キロの風とひょう	米国
1 282	06.04.2006	一連の竜巻	米国
1 034	12.09.2006	台風シャンシヤン(台風13号)	日本
920	11.03.2006	竜巻、洪水	米国
560	23.08.2006	嵐、ひょう、洪水	米国
500	02.04.2006	竜巻、ひょう	米国

表: 犠牲者の多かった2006年の災害

犠牲者(死者と 行方不明)	日付 (発生日)	災害	国
5 778	27.05.2006	地震(M6.3)がバンツル市を破壊	インドネシア
1 350	26.11.2006	台風ドリアン(レミング)によるマヨン山の豪雨	フィリピン
1 333	15.01.2006	寒波、停電	東欧
1 026	02.02.2006	フェリー「アルサラム98」沈没	エジプト
1 000	23.04.2006	旅客列車が貨物列車と衝突	北朝鮮
1 000	12.02.2006	雨による土砂崩れ	フィリピン

1970-2006年の保険金支払い請求チャート*



* 2006年: 暫定数値

自然災害: 米国 NFIP の洪水保険金支払い請求を含む

出典: スイス・リー シグマ誌による2006年の大災害予備的推計

シグマ誌災害統計の定義と選択基準:	
自然災害	自然の力で引き起こされた損害を伴う事象
人的災害	人的活動に伴う損害を伴う事象
損失総額	直接の経済的影響による損失
保険対象財産保険金支払い請求	損失総額のうち損害保険でカバーされている部分
最低選択基準:	
損失総額	8000万米ドル
または、保険対象財産保険金支払い請求額	船便: 1610万米ドル 空輸: 3220万米ドル その他: 4000万米ドル
または、人的被害	死者・行方不明: 20人 負傷者: 50人 家屋の喪失: 2000人

編集者への注釈

スイス再保険会社について

スイス再保険会社は、世界有数の再保険会社であり、生命・医療再保険では世界最大です。当社は世界30か国以上で70を超える拠点を展開しています。1863年にスイスのチューリッヒで創業されて以来、スイス再保険会社は再保険事業に従事してきました。スイス再保険会社は、資本とリスクを管理するための他種多様な商品を提案します。広範囲にわたる損害保険ならびに生命・医療保険と関連サービスなどの伝統的な再保険商品に加え、包括的なリスク管理のために保険をベースにしたコーポレート・ファイナンス・ソリューションとその補完的なサービスも提供しています。スイス再保険会社は、スタンダード&プアーズから「AA-」、ムーディーズから「Aa2」、A.M.Best から「A+」の格付けを取得しています。